

承認	議長	副議長	事務局長	次長	合議	担当
承認 25.12.24 議長	長尾	緒形	松本	吉田	岩藤	矢嶋 池田

様式第1号

2025年12月12日

真庭市議会
議長 長尾 修 様

真庭市議会議員 奥 侑樹

調査研究、研修会、要請・陳情活動

政務活動費を使用して、下記のとおり研究、調査等を行うことについて届けますので、承認願います。

記

1 区分 調査研究 研修会 要請・陳情活動

2 訪問先

- (1) 令和7年度 地域未来ビジョン創造セミナー(東京都中央区)
- (2) 宇野書店(東京都豊島区)
- (3) 喫茶ランドリー(東京都墨田区)
- (4) プレーパークせたがや(東京都世田谷区)

3 内容

本調査研究及び研修は、「多岐にわたる社会課題への対応と、官民連携による地域イノベーションモデル」を共通テーマとし、以下の4つの先進的な取り組みについて調査研究を実施する。

1. 令和7年度 地域未来ビジョン創造セミナー(東京都中央区)

急速に進展する人工知能(AI)技術の社会実装と、食料・国境問題を含む国家安全保障に関する最新の知見を得る。マクロな視点から社会課題を把握するため、池谷裕二氏(AIと社会の影響)および佐々木貴文氏(漁業から見た日本の安全保障問題)の講演を聴講する。



2. 宇野書店(東京都豊島区)

企業と地域の連携による賑わい創出、関係人口の増加に資する都市空間のあり方、およびオフィス機能を維持しながら地域に開く運営手法についてヒアリングおよび実地確認を行う。オフィス空間の一部を地域住民に開放する「民設民営」の公共空間活用事例を調査する。

3. 喫茶ランドリー(東京都墨田区)

民間ビジネスとして地域の社会的孤立解消や居場所づくり(サードプレイス)を実現している手法、補助金に依存せず持続可能な運営を行うためのビジネスモデル、および地域住民が「当事者」として関わるための「1階づくり(グランドレベル)」のデザイン手法について調査する。洗濯機・乾燥機等の家事機能を媒介に多世代が交流する私設公民館的施設の運営実態を調査する。

4. プレーパークせたがや(東京都世田谷区)

「自分の責任で自由に遊ぶ」遊び環境整備と屋外活動におけるリスクマネジメントの両立、区が場所と資金を提供し住民・NPOが運営を担う「協働運営モデル」の実際、および常駐するプレーワーカー(プレーリーダー)の役割・育成について調査する。

子どもの自主性・創造性を育む冒険遊び場(プレーパーク)の運営と、官民協働体制の実態を調査する。

4 行程 別紙のとおり

5 事務局から訪問先への依頼 必要→不要

(注)複数の議員で実施する場合、代表者の届けでよいが、参加議員名簿を添付すること。

視察行程表

1. 視察日時:令和8年(2026年)1月8日(木)～ 1月9日(金)
2. 視察者:真庭市議会議員 奥 侑樹
3. 詳細行程

月日	時刻	行程内容	移動手段	備考
1月8日(木)	7:30	自宅 発	自家用車	
	8:30	岡山空港 着	自家用車	
	9:50	岡山空港 発 (ANA654)	航空機	
	11:00	羽田空港 着	航空機	
	13:00	ベルサール汐留 着	鉄道	地域未来ビジョン創造セミナー
	18:30	ベルサール汐留 発	鉄道	
	19:00	宇野書店 着	鉄道	
	21:00	宇野書店 発	鉄道	
	22:00	宿泊先 着	徒歩	
1月9日(金)	9:00	宿泊先 発	鉄道	
	10:00	喫茶ランドリー 着	鉄道	
	13:00	喫茶ランドリー 発	鉄道	
	14:00	羽根木プレーパーク 着	鉄道	
	16:00	羽根木プレーパーク 発	鉄道	
	19:00	羽田空港 着	航空機	

	20:15 ▾	羽田空港 発 (ANA659) ▾	航空機 ▾	
	21:15 ▾	岡山空港 着 ▾	航空機	
	22:15 ▾	自宅 着 ▾	鉄道	

1. 宿泊先情報

- a. 施設名:天然温泉 豊穰の湯 ドーミーイン池袋
- b. TEL:03-5956-5489
- c. 住所:〒170-0013 東京都豊島区東池袋3丁目11-11
- d. 利用航空便:
 - i. 2026年01月08日(木) ANA654 岡山 - 東京(羽田)
 - ii. 2026年01月09日(金) ANA659 東京(羽田) - 岡山

報 告 書

2026 年 1 月 14 日

真庭市議会議長 長 尾 修 殿

報告者 真庭市議会議員 氏名 奥 侑樹 

下記のとおり政務活動費を使用して 調査研究→研修会→要請陳情活動をしましたので、その結果を報告いたします。

1 日 時	自 2026 年 1 月 8 日 至 2026 年 1 月 9 日
2 場 所	・ベルサール汐留（東京都中央区） ・宇野書店（東京都豊島区） ・喫茶ランドリー本店（東京都墨田区） ・羽根木プレーパーク（東京都世田谷区）
3 用 件	全国の先進事例に関する調査研究、及び全国市議会議長会主催の議員研修会への参加を通じ、今後の真庭市政運営に資する知見を獲得することを目的とする。
4 概 要	1. 議員研修会「地域未来ビジョン創造セミナー」への参加 本研修会は、全国市議会議長会の主催により、全国の市議会議員を対象として開催されたものである。現代社会が直面する複合的な課題について、各分野の専門家による講演を通じて多角的な視点を得ることを目的としている。技術革新や安全保障といったマクロな社会変動は、地方自治体の運営にも不可避な影響を及ぼす。本研修への参加は、こうした未来の潮流を的確に捉え、長期的な視点に立った政策立案能力を涵養する上で極めて有意義であった。



講演1：「AI がもたらす未来～人工知能の現在とこれからの社会～」に関する要旨

脳科学者の池谷裕二氏による本講演は、AI 技術の急速な進化が「人間らしさ」の定義そのものを問い直している現状を論じた。主要な論点は以下の通りである。

- **人間固有とされた能力の再定義:** 囲碁 AI「AlphaGo」が見せた棋士を凌駕する「直感」や、カウンセリング AI が利用者から高い評価を得た「共感力」の事例は、これまで人間固有の領域と考えられてきた能力が、むしろ AI の得意分野である可能性を示している。
- **人間を映し出す「鏡」としての AI:** AI は、人間の非合理性や弱さを客観視させる「鏡」として機能する側面を持つ。人間の棋譜から学ばない方が強くなった AI の事例は人間の「認知バイアス」を、チームゲームにおいて AI が人間のサポート役に徹することで勝率が向上した事例は人間の「協力関係の拙さ」を浮き彫りにした。
- **AI 時代における人間性の本質:** 計算や論理を超えた人間性の本質は、物理的な「身体性」と、内発的な動機である「人生を楽しむ」という根源的な欲求にあると結論付けられた。芸術作品に作り手の人生という「物語」を読み取り共感する能力もまた、人間ならではの特性であると指摘された。

講演2：「漁業から見た日本の安全保障問題-国境紛争と外国人依存-」に関する要旨

北海道大学の佐々木貴文氏による本講演は、漁業を単なる食料生産業ではなく、国家主権と安全保障に直結する「国境産業」として捉え直す必要性を強く訴えた。主要な論点は以下の通りである。

- **「国境産業」としての漁業:** 明治期以降、日本の漁業は国境画定と主権主張の最前線を担う戦略的な役割を果たしてきた歴史的背景が解説された。漁業者の存在そのものが、領土・領海における実効支配の根拠となりうる。
- **内外からの複合的な脅威:** 国内では、深刻な後継者不足と高齢化により産業としての再生産が困難な状況にある。国外からは、中国をはじめとする外国漁船団による周辺漁場への進出圧力が強まっており、特に武装した海上民兵を含む中国漁船団は、日本の主権を日常的に脅かす存在となっている。
- **国家の根幹を揺るがす危機:** 国境の最前線である漁業の衰退は、食料安全保障の問題に留まらず、領土保全という国家の根幹を揺るがしかねない直接的な脅威であると警鐘が鳴らされた。

結び

AI や国家安全保障に関する講演は、既存の社会システムの脆弱性と、新たな社会的回復力（レジリエンス）のモデル構築の必要性を浮き彫りにした。したがって、続く先進事例の調査は、こうした大規模な社会変動に対する地域レベルでの応答となりうる、草の根からのコミュニティ形成や公共空間創出の先進モデルを研究すべく、戦略的に選定したものである。

2. 先進事例の調査研究

研修会で得たマクロな視点を補完し、地域コミュニティの活性化や新たな公共空間の創出といった、より市民生活に密着したミクロな視点からの知見を獲得するため、都内 3 カ所の先進的な取り

組みを視察した。これらの事例は、行政主導ではない多様な主体による地域づくりの可能性を探る上で、戦略的に重要な示唆を与えるものである。

宇野書店（東京都豊島区）：新たな「私設の公共空間」の創出

批評家・宇野常寛氏がプロデュースするこの実験的書店は、「庭」という独自のコンセプトを具現化した空間である。

- **コンセプト:** 消費社会の喧騒から距離を置き、利用者が事物（本）との交流に集中できる「庭」として設計されている。広告や過剰な販促表示を排し、静的な環境が保たれている。
- **運営方法:** 無人運営とセルフレジを導入しつつも、店主による強い文脈に基づいた選書によって空間全体の質と思想が担保されている。これにより、商業施設でありながら、コワーキングスペースや図書館とも異なる独自の価値を提供している。
- **社会的価値:** 貨幣経済の論理に依拠しつつも、それに完全には従属しない「私設の公共空間」としての可能性を示している。空間の利用にあたり商品の購入は強制されず、来訪者は都市環境に蔓延する商業主義から距離を置き、静かな時間を過ごすことが許容されている。これは、あらゆる空間が商品化されがちな現代都市において、極めて貴重な実践であると評価できる。

喫茶ランドリー本店（東京都墨田区）：「まちの家事室」による交流創出モデル

株式会社グランドレベルが運営する喫茶ランドリーは、「1階づくりはまちづくり」という理念を体現した、私設の公共空間モデルとして全国的に注目されている。

- **理念:** 建物の1階部分を地域に開かれた空間とすることで、まち全体の活性化を目指す。単なるカフェではなく、誰もが気軽に立ち寄れる「まちの家事室」として機能することを意図している。
- **仕掛け:** 「洗濯」という日常的な行為を媒介とすることで、明確な目的がなくとも立ち寄れる「言い訳」を利用者に提供している。この仕掛けが、多様な背景を持つ人々が自然に集い、緩やかな交流を生む土壌となっている。日常の家事動線の中に社会的機能を組み込むこのモデルは、真庭市における人口減少や社会的孤立が課題となっている地域の空き店舗や交流拠点を再活性化させる上で、有効な示唆を与えるものである。
- **課題:** 視察時に確認した点として、業務用の洗濯乾燥機が洗濯から乾燥まで約3時間を要するという実践上の課題があった。これは、時間を効率的に使いたい利用者にとってはハードルとなりうる。理想的な交流空間を創出する上での、現実的な運営課題の一端を垣間見ることができた。

羽根木プレーパーク（東京都世田谷区）：住民協働による子どもの主体性を育む遊び場

日本初の常設冒険遊び場である本施設は、子どもの主体性を最大限に尊重する理念と、行政と住民の協働による運営モデルにおいて先進的な事例である。

- **理念:** 「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーとし、火の使用、穴掘り、木工といった通

常の公園では禁止されがちな活動を許容している。禁止事項を極力減らすことで、子どもたちの自発性、創造性、そしてリスクを管理する能力を育むことを目指している。

- **運営:** 世田谷区（行政）と NPO 法人プレーパークせたがや（地域住民）との協働事業として運営されている。遊びを指導するのではなく、子どもの活動を見守り、安全な環境を整える専門職「プレーリーダー」が常駐している点が特徴である。
- **課題と示唆:** 運営者は、理念を広く普及させようとすればするほど核心が薄まり、表層的な模倣に陥る危険性があるというジレンマを指摘しており、先進事例を導入する際の重要な留意点として認識された。また、行政担当者の異動によって構築された NPO との協力関係が損なわれる課題も挙げられた。これは、行政が地域団体との長期的パートナーシップをいかに維持・支援していくかという、本市自身の組織運営に対する教訓でもある。本視察は、真庭市で実施されている「遊びの日」等の事業を評価・改善する上で具体的な「補助線」を与え、その意義と課題に対する「解像度」を高めるものであった。

5 所感

今回視察した 3 つの事例は、宇野書店のような個人、喫茶ランドリーのような民間企業、そして羽根木プレーパークのような NPO と行政の協働体など、多様な主体が公共的な空間を創出し、地域コミュニティの形成に寄与していることを示している。これは、行政が全ての公共サービスを担うのではなく、多様な担い手と連携していく今後の地域づくりの方向性を示唆するものである。

総括及び市政への示唆

本研修および調査研究活動を通じて得られた知見は、真庭市の将来的な政策立案や地域課題の解決に多角的な視点を提供するものである。特に、マクロな社会変動への対応と、ミクロな地域実践の双方から得られた学びを統合し、今後の市政運営に活かしていくことが重要である。

要点整理

- **マクロな変動期における新たな公共空間の戦略的価値** AI による社会構造の変化や安全保障上の不安といったマクロな変動期において、地域社会の結束と回復力（レジリエンス）を支える人間中心の「サードプレイス（第三の居場所）」は、単なる交流施設ではなく、重要な社会基盤となる。宇野書店は、個人が消費社会から距離を置き思索に集中できる「静的な避難所」モデルを提示する一方、喫茶ランドリーは、偶然の出会いと緩やかな交流を誘発する「動的な結節点」モデルを示す。これらの事例は、行政が全ての場を提供するのではなく、多様な民間主体の活動を支援し、複層的な公共空間の創出を促す「触媒」としての役割を担うことの重要性を示唆している。
- **子どもの主体性を育む環境整備：リスク予防から機会創出へ** 羽根木プレーパークの事例が

示す核心は、子どもの「遊ぶ権利」の保障にある。これは、単なる遊び場の設置に留まらず、行政の基本姿勢を「リスクの予防」から「機会の創出」へと転換させることを求めるものである。真庭市の「遊びの日」等の事業を発展させるにあたり、過度な管理や禁止事項を見直し、子どもが自らの責任で自由に挑戦できる環境をいかに保障するかという視点を取り入れることで、市民の主体性を育むまちづくりへと繋がる。

- **長期的な視点に立った政策検討の必要性** AI の社会実装や国の安全保障といった大きな潮流は、一見すると地方自治体とは無関係に思われがちだが、長期的には市民生活や地域経済に大きな影響を及ぼす。技術革新がもたらす社会構造の変化や、食料安全保障のような国レベルの課題が地域に与える影響を常に視野に入れ、長期的視点に立った政策検討を行う必要がある。

今回の政務活動で得られた知見は、今後の議会活動における政策提言や議論の質を高める上で、極めて貴重なものである。これらの学びを真庭市の具体的な政策へと接続させ、市民福祉の向上と持続可能なまちづくりに貢献していく所存である。



